

御期待ニ副ヒ得ヘキヤモ亦一ニ懸リテ右御交渉並ニ豫算ノ成否ニ存スル次第ニ有之候尚又右御交渉萬一妥結ヲ見サルニ於テハ結局豫算ノ審議ニ就テモ大藏當局ニ難色アルニ非スヤト一同一喜一憂致シ居候。

就テハ現下國際情勢混沌タル折柄政務御多端ノコトトハ存候へ共満三歳ニ瓦ル當地排日運動昨今漸ク緩和ノ兆現レタルモ最近又モヤ提唱國貨救國會ノ組織セラルアリ國貨提倡ノ名ヲ藉リテ日貨排斥ヲ續行セントスルカ如キ決議新聞

紙上ニ傳ヘラレ前途尚樂觀シ得サル今日當地居留民トシテハ差當リノ喰ヒ繫キスラ容易ナラサル有様ニ有之候間當地特殊ノ事情御憫察ノ上尚此ノ上共成ル可ク早目ニ當面ノ難局ヲ救濟セラル様御盡力相賜リ度茲ニ居留民一同ヲ代表シ右御願旁貴局長段々ノ御高配ニ対シ深甚ノ謝意ヲ表示致シ候次第ニ有之候

敬具

七 雜 件

1 治外法權問題

755 昭和5年1月(3)日

在中国國壇(義貴)臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の治外法權撤廢命令に対する我が國方針確定方請訓

北平 発
本省 1月3日前着

第一號

今回國民政府ニ於テ發表シタル領事裁判權廢棄命令ニ關シ

テハ之カ對策ニ付政府ニ於テ折角御考慮ノコトト思考セラル處理論上斯ノ如キ一方的措置ノ國際的效力如何ノ問題ハ兎モ角トシ實際問題トシテ日本政府ノ態度ヲ此ノ際何等カノ形ニ於テ内外ニ向ヒ明ニナシ置クコト必要ナルヤニ

思考セラル就テハ第一案トシテ往電第九號ノ如ク主要關係國ノ例ニ做ヒ可然日支間ニ合意成立スルニ至ル迄ハ今回ノ

命令ハ日本國民ノ關スル限り適用ナキモノト認ムル旨文書ニ依ル留保ヲ支那側ニ申入ルルコトトナスカ又ハ第二案トシテ今回ノ命令ハ理論上勿論日本側ヲ拘束スルモノニアラストノ解釋ヲ採リ其ノ旨ヲ發表スルカ又ハ其ノ趣旨ニ依リ全然今回ノ命令ヲ默殺スルノ態度ヲ御決定相成ルト共ニ今後支那各地ニ於テ起ルコトアルヘキ種々ノ問題ニ對シ之力措置振ヲ在支各公館ニ御訓令相成度尙今後本問題ハ隨時外交團内ニ於テ論議セラルルコトト豫想セラルルニ付何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

上海、南京、奉天ニ轉電セリ

756 昭和5年1月(4)日

在上海重光總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英國は治外法權問題を中心に対中國政策で指導的地位を確立せんと看取されるについて

上海 発 本省 1月4日後着

吉林 発 本省 1月18日後着

第五號

一月二日「バツクネル」ハ法權問題ニ付テハ英國公使來寧交渉ノ際法權撤廢聲明ノ主義ハ勿論支那側ノ有スル細目ノ

「プラン」ニ對シテ重要ナル變更ヲ加フルコトハ支那側現在ノ狀況ニテハ餘程困難ニシテ大體ニ於テ之ヲ鵜呑ニスルカ又ハ交渉停頓ニ陷ルノ外ナカルヘント感想ヲ述ヘ居タルカ「ヒュウレット」ノ談ニ依レハ英國公使ハ法權問題ノ外賣艦問題等種々ノ交渉案ヲ有スルコトニテ南京滯在ハ相當長キニ亘ルヘシト述ヘ居リ英國トシテハ各國ト支那トノ關係ニ於テ充分指導的地位ヲ確立セムト努力シ居ルコト明カニ看取セラレタリ

支、奉天へ轉電シ南京へ暗送セリ

757 昭和5年1月18日 在吉林石射總領事より 帪原外務大臣宛(電報)

中國雜誌所載の田中上奏文配付取締りに關し

南京上村領事へ問合せ

大臣、支、奉天ニ轉電セリ
上海ニ轉電アリタシ

大臣、北平、上海、奉天へ轉電セリ

758 昭和5年1月21日 在南京上村領事より 帪原外務大臣宛(電報)

中國雜誌所載の田中上奏文問題につき周龍光

本官發南京宛電報第一號

吉 林 發 本省 1月18日後着

第四號

最近當地着ノ貴地發行支那雜誌時事月報客年十二月號所載

ノ「驚心動魄ノ日本滿蒙積極的田中義一ノ上奏文」ト題スル長文ノ排日記事ハ上奏文ト銘ヲ打チ居ルカ為當地ニ於テ一部人士間ニ「センセイシヨン」ヲ起シ居ル様ニテ配付ノ為單行本ニセント企テ居ル者モアリトノコトヲ耳ニシタル所(奉天方面ニテハ既ニ右方法ニテ配布セルヤノ噂當地ニ在リ)本件記事ニ付貴官ニ於テ支那側ニ對シ何等御措置アリタリヤ右配布取締方當地官憲ニ申入ル上ニ於テ参考ト致度ニ付何分ノ儀御回電ヲ請フ

と談話内容吉林石射總領事に回答

南京 発

本省 1月21日後着

第七二號

本官發吉林宛電報

第一號

貴電第一號ニ關シ

時事月報ハ客年十一月創刊セラレタルモノニシテ當館ニ於

テモ右記事ニハ氣付カサリシ次第ナルカ御來示ニ依リ本官

早速周龍光ト會見シ日支兩國政府ノ非常ナル努力ニ依リ兩國間ノ空氣良好トナリツツアル此ノ際右記事ノ如キ無稽ノ事項ヲ流布シ人心ヲ刺戟スルハ貴國政府ノ意思ニモ反スル

次第ナルニ依リ之カ配布ヲ阻止スル様考慮アリタシトノ趣

中總理ノ上奏文ナルモノハ廣く流布セラレ居ルニ付單ニ時

事月報ノ配布取締丈ケニテハ問題ノ解決トモナラサルヘキニ付迅速其ノ出所等ヲ突止メ斯ル無稽ノ言説ニ依リ日支間

ノ空氣ヲ害セサル様措置スヘキ旨答ヘタリ

右不取敢

リト語レリ

上海、南京、奉天へ轉電セリ

～～～～～

上海、南京、奉天へ轉電セリ
在上海重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

760 昭和5年2月5日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

ジョンソン米国新公使は蔣介石に好感を持ち

一力月後に中國側と商議開始の予定について

上 海 2月5日前発
本 省 2月5日後着

公第一五五號

四日「ジョンソン」新米國公使ニ會見シタル處同公使ハ南京ニ於テ蔣介石始メ王正廷、孫科、孔祥熙等ト會見シタルカ蔣介石ニ對シテハ甚々良キ印象ヲ得タリト語り尙治外法權問題ハ目下華府ニ於テ交渉中ナルニ付自分トシテハ右ニ付交渉スルコトナラサルヘキモ今般北上ノ上ハ約一ヶ月後再ヒ南下シ上海南京ノ間ヲ往來シテ支那側トノ間ニ種々ノ問題ヲ商議スル考ヘナリト述ヘタリ

同公使ハ本五日當地發ノ奉天丸ニテ北上ノ途ニ就キタリ

南京、北平、青島、天津、奉天へ轉電セリ

761 昭和5年9月19日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）
～～～～～
治外法權撤廃交渉の早期開始を求める王寵惠との会見報告

南京 本省 9月19日後着 発

公第九〇三號

十七日本官王寵惠ト會見シ種々意見ノ交換ヲ行ヒタルカ其ノ際王ハ治外法權問題ニ言及シ日本ハ他國ト異ナレル地位ニアリ又豫テ同情アル態度ヲ執リ居ラルコト承知シ居ルモ自分トシテハ成ルヘク速ニ本問題ノ解決ヲ希望シ居リ且ツ本問題ヲ解決スルコトハ日本側ニトリ何等不利益ニ非スト述ヘタルニ付本官ハ之ニ對シ日本カ治外法權問題ニ對シ同情的態度ヲトリ居レルコトニ付テハ今日ト雖何等從來ト異ナラサルノミナラス關稅協定成立後間モナク本問題ノ交渉ニモ着手スヘキ筈ナリシモ支那政局ノ不安定等ノ關係上今迄其ノ實現ヲ見ルニ至ラス又自分ニ於テモ過般歸朝ノ上親シク政府ノ意図ヲモ尋ヌル積リナリシモ日本政府ニ於テモ關稅協定成立後倫敦海軍條約問題ノ爲樞密院ト困難ナル

公第九二一號

九月十八日南京ニ於テ王外交部長ト會見ノ際同部長ハ戰局ニ付テ頻リニ樂觀的説明ヲ爲シ蔣主席ハ本月末ニハ南京ニ凱旋シ得ヘシ就テハ「ウイルデン」（佛公使ハ信信狀捧呈ヲ要ス）ハ夫迄ニ南下スルコトニ打合セタリ又「ランプソン」ハ今回南下ノ上廈門英租界返還取極ニ調印シ威海衛引渡及賠償金問題ヲモ大體解決シ法權問題ニ付テハ具體案ヲ支那側ニ提出セシモ本件ハ今回ハ交渉ノ段取ニ行カス十月再ヒ同公使ハ南下交渉ヲ始ムルコトニ話合ヒタリ又華府ニ於テハ伍朝樞ノ手ニ依リ之亦十月初ヨリ法權問題ノ交渉ヲ開ク筈ナリ日本側トハ豫テ打合セノ通成ルヘク速ニ法權問題ノ交渉ヲ始メタキ處貴下ハ曩ニ一時歸朝ノ上萬般ノ用意ヲ爲サレタキ旨説明アリシカ今日尙御歸朝ノ意図アリヤト尋不タルニ付本官ハ書面又ハ電報ノ往復ヨリモ面談スルコト事務ノ進捗ニ便ナル次第ニ付其ノ後モ歸朝ノ意思ハ捨テ

サルモ日本政府ニ於テハ目下引續キ海軍條約ノ問題ノ爲多忙ニテ差當リ歸朝ノ時機ニアラスト思ハルニ付時機ヲ待チ居ル次第ナルモ右ハ交渉ヲ遷延セントスル意思ニアラスシテ寧ロ促進セントスルノ意ニ出テタルコトハ御承知ノ通件
七 雜 件
北平、奉天へ轉電シ南京へ暗送セリ
～～～～～
762 昭和5年9月20日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）
王外交部長より治外法權撤廃交渉等の開始を
督促について
上海 本省 9月20日後着 発

ナル力若シ書面又ハ電報ニテ事足ルニ至ラハ歸朝モ從テ不要トナル譯ナル力差當リ電信會議等ニテ手一杯ナリ尙英國

具體案ヲ提出シタリトノコトナルカ右ニ付テハ支那側ノ意見ヲ表示セスト答ヘ次テ租界ノ問題ニ言及シ英國ハ一、二

租界ノ外殆ト全部支那側ニ返還セルカ日本ハ支那ニ多クノ租界ヲ有スルヲ以テ右ハ日本帝國主義云々排日宣傳材料ニ使ハレ一般ハ迷ハサレ易キモ實ハ天津漢口ヲ除ク以外ノ日本租界ハ荒廢ニ歸シ居ル無價值ノモノナリ若シ日本ニシテ此等無價值ノモノヨリ返還セラルニ於テハ非常ニ好都合ナリ右ニ付テハ要求スル次第ニアラサルモ日本側ニ於テ充分御考量ヲ願度シト述ヘ居タリ

北平、奉天へ轉電シ南京へ暗送セリ

763 昭和5年10月2日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

英國側は治外法權問題で一貫した態度をとる
や不明につき注意が必要との意見具申

本省 10月2日後發
上 海 10月2日後發

公第九五四號（極秘）

英國最近ノ對支政策ハ一九二六年未ノ覺書ノ遂行ニ外ナラサルモ右ニ付テハ「ランプソン」中心ニ行ハレ居ルコト亦想像ニ難カラス彼ハ如何ナルコトニテモ常ニ列國ニ先ソセムコトヲ努メ貿易本位ノ支那トノ關係ヲ有利ニ維持セムコトヲ焦慮シ居リ爲ニ小策ヲ弄スルトノ評アル位ニシテ何レニシテモ英國力法權問題ニ付テモ徹底的ニ他國ト協力スルノ政策ハ容易ニ執ラサルヘク「ラ」ノ今回ノ法權問題具體案ニ關スル提議ハ日米ノ機先ヲ制シ英國ノ指導的地位ヲ支那側ニ示スト同時ニ他國ヲシテ同様ノ提議ニ賛成セシムトスル腹案ナルコト同公使トノ話合ニ依リ明カニ感セラレタル處ナリ英國側ハ今回ノ戰局ニ關シ寧ロ北方ノ勝利ニ歸スルモノトノ觀測ヲ下シタルモノノ如ク其ノ爲種々策ヲ弄シ特ニ稅關問題「シンプソン」ノ待遇等中央政府ノ感觸ヲ害シタルコト鮮カラス右ハ「ラ」公使自身ニ於テ明カニ自覺シ居ル處ナリ若シ蔣介石南京ニ歸還シ南京政府ノ力强大トナルヲ看取スルニ於テハ「ラ」公使ハ必ス之ヨリ好感ヲ

得ヘク各種ノ問題ニ付テ努力ヲ爲スヘキハ想像ニ難カラス

（威海衛ノ讓渡モ始メ「ラ」公使ノ口吻ニテハ今回ハ間ニ合ハサルモノノ如カリシモ形勢ヲ見テ急ニ促進シタルモノノ如シ）其ノ時ハ法權問題ニ付テモ果シテ終始一貫ノ態度ニ出ツルヤハ不明ナリ從テ我方ニ於テハ他國ト出來得ル丈ケノ響應ハ之ヲ希望スル處ナルモ餘リ英國等ノ態度ヲ當ニハセサルコトニ注意ヲ爲ス必要アルヘシ（尤モ右ハ支那ノ今般ノ政局ニ左右セラルハ論ヲ待タサルモ）往電公第八九四號補足旁卑見申進ス

編注 当該「今」の箇所に「全」との書き込みあり。

764 昭和5年10月13日 在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）

治外法權問題交渉に関するキャッスル米国國務次官補の談話について

ワシントン 10月13日前発
本省 10月14日前着

第二九五號（極秘）

十一日他用ヲ以テ面會ノ際「キヤスル」次官補ハ支那ニ對スル米國政府ノ方針ニ付大要左ノ通内話セリ

先般東京ヨリ歸任以來支那ニ關シ執ルヘキ方針ニ付種々考慮ノ結果平素日英殊ニ日本トノ間ニ互ニ隔意ナキ了解ヲ遂ケ置クコト必要ト認メ最近「ジョンソン」公使ニ對シ大要左記ノ趣旨ヲ内訓セリ

(一)米國側ニ於テ措置スヘキ國際關係上重要ナル事柄ニ付テハ隨時隔意ナク日英兩國代表者ニ内話スルハ勿論米國側ヨリ何事モ進テ打明ケ内話スル態度ニ出ツルコト斯クスレハ自然日英側ニ於テモ同様ノ態度ニ出ツヘシ

(二)支那問題ニ關シ日英トノ間ニ隔意ナキ協調ヲ保ツコト必要ナルハ勿論ナルモ從來支那ニ於テ繰返サレタル共同措置ハ動モスレハ支那側ノ反感ヲ招キ豫期ノ效果ヲ擧ケ得サルノミナラス間々支那側ノ離間策ニ乘セラルコトアルニ顧ミ米國トシテハ今後關係國公使打揃ツテ抗議ヲ爲シ又ハ共同シテ警告ヲ與フルコトハ一切之ヲ止メ内部的ニハ隔意ナキ協議ヲ遂クルモ支那側ニ當ル場合ニハ可成單獨ニ行動スルコト然ルヘシ

(三)領事裁判權撤廢問題ニ關シ華盛頓ニ於テ支那公使トノ間ニ行ハレ來レル交渉ハ徐ニ適當ノ機會ヲ見テ之ヲ支那ニ移スコトトスヘシ

右(三)ニ關シ「キヤスル」ハ華盛頓ニ於テ法權撤廢ニ付商議

シ居ルコトハ動モスレハ外國側ヨリ誤解ヲ招ク虞アルノミナラス本交渉ハ實際上思ハシク進行セサルニ顧ミ之ヲ支那ニ於テ行フコトニ付「ホルンベク」極東部長ヲ說得シタル處彼モ遂ニ得心スルニ至レリ然ルニ近々支那公使モ歐洲ヨリ歸任シ從來ノ成行上一應華盛頓ニ於テ本問題ノ交渉ヲ再開スル段取トナリ居ルニ顧ミ此ノ際イキナリ交渉ヲ支那ニ移スコトハ甚タ具合惡シキニ付兎ニ角當分ノ間ハ華盛頓ニ於テ商議ヲ續ケ適當ノ潮時ヲ見計ヒ徐ニ之ヲ「ジョンソン」公使ノ手ニ移ス考ナルコトヲ敷衍内話アリ以上「キヤスル」ノ談話ハ事機微ニ屬スルニ付外國側ハ勿論米國側ニモ洩レサル様特ニ御配慮願度シ

英ニ轉電シ英ヨリ在歐各大公使ニ暗送セシム

765 昭和5年10月13日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

カ强大トナランカ彼等ニ執リ極メテ危險ニシテ恐ルヘキモノトナシ唯一ノ方法ハ支那ヲシテ内亂ノ爲富強ナランメサルニアリト思惟スルニ依ルモノニシテ即チ我友タリ能ハサルナリ

(四)現在最重要ナル我外交方針ハ領事裁判權ノ撤廢ニシテ此

ノ難關ヲ打破スル爲吾人ハ一大決心ヲナササルヘカラス政府ニ於テハ之カ對策研究中ナルカ國民モ各國中囊ニ此ノ特權ヲ放棄シタル國ヲ友トスヘク一致決心センコトヲ希望ス

(五)各國公使館ハ速ニ南遷スヘキモノナルカ其ノ然ラサルハ

我國ノ意中ヲ尊重セサルモノニシテ世界各國ニ斯ノ如キ事例ナキノミナラス延テ面白カラサル影響ヲ來スコトアリ今次闇、馮ノ反德ノ如キモ之力原因ノ一ト言ハサルヲ得ス吾人ハ目下公使館ヲ南遷セシムヘク考究中ナリ云々委細公信

件 上海、北平、奉天へ轉電セリ

王正廷が外交演説において領事裁判權の撤廢が最重要と強調について

南京 10月13日後発

本省 10月14日前着

第七四四號

王正廷ハ本十三日中央黨部記念週ニ於テ内政問題ノ報告ニ次テ外交問題ニ言及シ吾人ハ先ソ世界ノ大勢ヲ見極メタル上何レノ國力自國ニ對シ好感ヲ有シ平等ノ取扱ヲナスヤヲ認識スル要アリト前提シ各國トノ關係ニ付大要左ノ通述ヘタル趣ナリ

(一)支那カ廣大ナル國境ニ依リ相接スル露國ト今以テ敢テ國交ヲ回復スルニ至ラサルハ世界ノ組織ヲ覆ヘシ殺人放火手段ヲコトトスル第三「インターナショナル」ノ特殊指嗾ニ原因スルモノニシテ絕對ニ之ヲ友トシ難シ

(二)此ノ外一二ノ國ニシテ友邦ニ對シテハ單ニ通商ヲ目的トスルニ拘ラス尙衝突ヲ見ルハ彼等カ領事裁判權ヲ以テ支那ヲ侵略スルカ爲ニシテ之亦友トナス能ハス

(三)同文同種ノ隣國ハ友トシ得ヘキ力如キモ數十年來之ト衝突セルハ同國內ニ大勢ニ通セサル政客アリテ若シ支那

王外交部長が永井次官に対し現下日中間の問題に關し意見開陳について

別電一 十月十八日着在南京上村領事より幣原外務大臣宛第七六一号

条約改訂問題および内河航行問題について

二 十月十八日着在南京上村領事より幣原外務大臣宛第七六二号

南京事件解決について

三 十月十八日着在南京上村領事より幣原外務大臣宛第七三号

東方文化事業について

四 十月十八日着在南京上村領事より幣原外務大臣宛第七六四号

大使館昇格および南遷問題について

官より在中国重光臨時代理公使、在南京上

中国建設事業助成を通じて日中関係の緊密化を図るべきについて

南京 発
本省 10月18日後着

942

第七六〇號

十七日永井次官王外交部長ヲ往訪（本官モ同行）シタル處
王ハ同次官ニ友人トシテ日支間ノ問題ニ付腹藏ナキ意見ノ
交換ヲシタシト前提シ條約、南京事件、文化事業並公使館
ノ問題ニ付別電（一）乃至四（第七六一號乃至第七六四號）ノ
如キ意見ヲ述ヘタリ

上海、北平ヘ轉電セリ

（別電一）

南京 発
本省 10月18日後着

第七六一號

王部長ノ條約問題ニ關スル意見左ノ通

日支間ニ先ツ解決ヲ要スル最重要ナル案件ハ條約ノ改訂問
題ナリ殊ニ總理ノ遺囑ニモ平等ヲ以テ我ヲ待ツ國ト協同ス
トアリ不平等條約ノ存在ハ日支親善ノ最大障礙ナルノミナ
ラス日支條約其ノモノニ付テモ支那側ハ既ニ條約ハ消滅セ

上海、北平ヘ轉電セリ

（二）内河航行問題ニ付テハ相互主義ハ事實上支那側ニ何等得

ル所ナキヲ以テ支那ノ内河航行權ハ之ヲ支那人ニ保留ス
ルコトセルカ例へハ日本ノ汽船會社ト支那側トノ合辦
會社ヲ造リ支那ノ資本ヲ入レ支那ノ會社トシテ内河航行
ニ從事スル案ノ如キハ最モ適當ナル解決方法ナルヘシ事
實支那ニハ目下充分ノ船舶ナキヲ以テ斯ノ如クセハ現在
内河航行ニ從事シ居ル外國汽船ヲ其ノ儘支那ノ汽船トシ
テ使用シ得支那側ニ取リテモ好都合ナリ

上海、北平ヘ轉電セリ

（別電二）

南京 発
本省 10月18日後着

第七六二號

王部長ノ南京事件解決ニ關スル意見左ノ通

日本カ南京事件ノ解決ヲ急キ居ル事情ハ自分（王）モ良ク
諒解シ居レリ將又自分トシテハ南京事件ヲ濟南事件ニ關聯

上海、北平ヘ轉電セリ

（別電三）

南京 発
本省 10月18日後着

第七六三號

大ニシテ支那側賠償委員モ手ヲ着ケ得サル次第ナリ從テ
此ノ上個々ノ損害ニ付調査シ議論スルモ容易ニ解決ノ望
ナキニ依リ此ノ上ハ速ニ解決ヲ計ル見地ヨリ總額ヘ「ラ
ンプサム」ニ付談合ヲ爲シ政治的ニ解決スル意向ヲ有
ス

上海、北平ヘ轉電セリ

（一）濟南事件ニ付テハ速ニ損害（調査）委員ヲ正式ニ任命ス
ルコト必要ナルカ委員ハ單ニ形式的ノモノトシ何等仕事

ヲセシムルコトナク實質的ニハ重光代理公使ト自分トノ
間ニ於テ政治的ニ處理シ得ヘシ
(二)南京事件ニ付テハ領事館ノ損害ハ日本政府ノ要求通其ノ
儘賠償スル考ナルカ日本在留民ノ損害要求額ハ餘リニ過

現ニ文化事業ノ爲シツツアル事業ハ誠ニ適當ノモノナルニ
依リ其ノ儘遂行セラレ差支ナキモ其ノ委員ハ總テ支那政府

ヨリ任命スル形式トスル丈ハ絕對ニ必要ナリト述ヘタリ

右王正廷ノ考ハ支那側從來ノ主張ニ比シ頗ル簡單ナル改革

案ナル力第三次全國代表大會ノ決議ニ依レハ各國ノ團匪賠
償金ヲ一括シ其ノ三分ノ二ハ鐵道敷設ニ使用シ之ヨリ生ス

利利益ヲ教育費ニ充當スルコト並其ノ他三分ノ一ハ水利及
電氣事業ニ使用スルコトトナリ居リ現ニ孫科ノ如キハ英國

ノ團匪賠償金ヲ鐵道建設ニ振當ツルコトトナリタルニ味ヲ

占メ更ニ日本ノ分ヲモ鐵道ニ振向ケントノ意圖ヲ有シ胡漢

民邊ヲ突キ居レリトノ聞込モアリ旁右王正廷ノ言ヲ其ノ儘
信用シ得ルヤ否ヤ尙研究ノ餘地アリト存セラル

上海、北平へ轉電セリ

(別電四)

南京發
本省 10月18日後着

第七六四號
王部長ノ大使館昇格及南遷問題ニ付述ヘタル處左ノ通

上海、北平へ轉電セリ

(付記)

機密

拜啓陳者過般中國ノ動亂一段落ト共ニ國民政府ニ於テハ漸
次内政ノ整備ヲ圖リ各種建設的方面ニ力ヲ注クノ傾向ヲ生
シ來リタルヤニ觀察セラレ候處右機運ニ際シ我方ニ於テ中
國側當局ヨリノ派遣員ニ對スル視察便宜ノ供與乃至之力養
成、同當局ニ對スル各種參考資料ノ供給、本邦ヨリノ指導
員ノ派遣等ノ方法ニ依リ同國ノ建設的事業ヲ助成スルコト
ハ實行比較的容易ナルノミナラス兩國關係ノ實質的緊密ヲ

圖ル上ニ於テ效果不渺ヘク一方中國側トシテモ是等ノ點ニ
於テ我方ニ倚賴スルコトハ彼是便益多ク最モ能率ヲ擧クル

所以ト思考セラル次第ニテ目下實施中ノ警察官吏ノ養成
(四月二十五日附往信亞一機密第四三號)ヲ初メ這般貴信
御來示ノ儲金匯業總局員ノ見學(十月二十四日附重光代理
公使發幣原大臣宛機密公第二五六號)鐵道職員ノ派遣招聘

(十月二十四日附重光代理公使發幣原大臣宛機密公第二
八號)ノ如キ又在京中國公使館申出ニ依リ當方ニ於テ斡旋
件

七 雜 件

セル海關行政考察員ノ見學(十二月五日附幣原大臣發重光
代理公使宛亞一機密第一三〇號)ノ如キモ其ノ一端ニ外ナ

本件ハ此ノ際日支間ノ感情ヲ改善スル見地ヨリ特ニ日本ノ
考慮ヲ得タキ次第ナリ

英國ノ如キハ關稅協定締結以來鎮江、廈門、威海衛ヲ相次
テ還附シ更ニ團匪賠償金ノ問題モ支那側ノ希望ニ依リ解決
シ之カ爲支那ノ對英感情頗ル良好トナリ諸種ノ對英案件交
渉ノ上ニモ好影響ヲ與ヘタリ支那民衆ノ日本ニ對スル感情
ハ近來餘程良好トナリタルモ今尙充分ニ融和スルニ至ラス
依テ此ノ際日本ニ於テ先ツ大使館昇格ヲ實現スルニ於テハ
支那ノ對日感情頓ニ良好トナリ各種案件ノ交渉モ順調ニ進
行スルニ至ルヘシ然ルニ大使館昇格ト同時ニ之ヲ南京ニ移
スコトモ一般ノ熱望ニ副フ次第ニシテ自分ノ切ニ希望スル
處ナリ

尙大使館南遷ノ場合ニハ北平ニアル公使館ノ敷地及建物ハ
國民政府ニ於テ買上ケ確實ナル「ボンド」ヲ交付スヘキニ
付右「ボンド」ヲ銀行ヘ擔保トシテ現金ヲ融通セハ南京ニ
大使館ヲ建設スル資金トナシ得ヘシ其ノ上ハ北平ノ公使館
ハ其ノ儘北平大學ノ校舍トシテ使用スル豫定ナリ

上海、北平へ轉電セリ

ラサル處當方ニ於テハ今後此ノ趣意ヲ一層徹底擴充セシメ
行政司法ノ各部門、鐵道其他交通通信業務、各種產業施設
等凡百ノ方面ニ亘リ前述其他諸般ノ便宜ヲ供與シ出來得ル
限り中國當局ニ援助ヲ與ヘ度意向ニテ右ハ過般吉田前次官
ヨリ次官會議ニモ提倡シ各省側ノ贊成ヲ得置タル次第有之
ニ就テハ貴官ニ於テモ右御含ミノ上隨時中國側ニ對シ此ノ
趣意ヲ御説明相成彼ヲシテ充分我方好意ヲ利用セシムル様
折角御指導相成度此段申進俟 敬具

昭和五年十二月二十四日

永井外務次官

本信宛先 在中國重光代理公使 在南京上村領事

本信寫送付先 在上海村井總領事、在奉天林總領事、在吉
林石射總領事、在齊々哈爾濱水領事、在北平矢野參事官、
在天津田尻總領事代理、在濟南西田總領事、在青島川越
總領事、在漢口坂根總領事、在福州田村總領事、在廣東
須磨總領事代理、在杭州米內山領事代理、在九江河野領
事、在長沙糟谷領事

昭和5年10月(21)日

在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

大使館昇格問題、治外法權問題など中國時局
に関するパークインスとの会談要旨報告

第七五四號

二十一日館員ノ「パークインス」トノ會談中参考トナルヘキ
事項左ノ通

北平 10月21日後着 発

一、館員ヨリ南京政府ニ於テハ從來列國公使ノ大使館昇格ヲ希望スルカ如キ口吻ヲ洩シ居ル模様ナルカ米國側ニ對シテハ何等申出ナキヤト問ヘルニ「パ」ハ全然左様

ノコトナシ私見トシテハ假ニ申出ツルコトアリトスルモ支那力現在ノ如ク混亂狀態ヲ續ケ外國人ノ生命財產カ危險ニ瀕シツアル實情ニテハ支那ヲ文明國トシテ待遇シ右ノ如キ申出ヲ考慮スル價值ナシト謂ハサルヲ得ス最近漢口地方ニ於テ米國領事ノ退去命令ヲ聽カスシテ内地ニ常在シ居リタル「ネルソン」宣教師カ土匪ニ拉致セラレ三十萬元ノ身代金ヲ要求セラレタルカ支

那側ハ軍隊ヲ派シテ其ノ釋放ヲ計ルヘキ旨聲明シ居ルモ右ハ素ヨリ當ニナラサルニ付在米支那公使館及南京政府ニ對シ福建ニ於ケル英國婦人宣教師虐殺ノ例ヲ引キ本件カ若シ同様ノ結果ニ陥ル場合之カ米支關係ニ及ホスヘキ惡影響ヲ指摘シ强硬ニ支那側ニ於テ全責任ヲ以テ支那側ノ最良ト思考スル方法ニテ其ノ釋放ニ全力ヲ盡スヘキ様要求シ居ル次第ナル處此ノ種事件ハ單ニ被害者個人ノ問題ニアラス之力爲ニ國交ニ影響スル處甚大ニシテ其ノ爲貿易迄惡影響ヲ及ホス虞アリ故ニ自分トシテハ他日治外法權撤廢セラレ外人ノ内地居住若ハ旅行ニ對スル保護取締カ全然支那側ノ責任ニ歸スヘキ場合ハ別トシ

少クトモ治外法權存續シ外國力自ラ居留民ノ保護取締ニ任シ居ル間ハ米國人ノ内地旅行若ハ居住ヲ制限又ハ禁止スル手段ヲ講スル必要アリト考ヘ居レリト答ヘ次ニ館員ヨリ王正廷ハ公使館區域買收ノ意囑ヲ非公式ニ洩シ居ル様ナルカ貴方ニ對シ何等右様ノ話ハナキヤト問ヘルニ「パ」ハ全然左様ノコトナシ自分ノ記憶ニ依レハ公使館區域ハ外國力撤退スル場合全部無償ニテ

本官發在支各領事宛電報合公第五七〇號

戰事一段落後國民政府及黨部ニ於テハ(脱)氣傲リ不用意ノ間ニ對外關係ニ於テ不規則ナル强硬論若ハ强硬ナル態度ヲ露骨ニスルノ氣配アリ右ハ中央及地方ニ共通ノコトト認メラルモ地方ニ於テハ戰爭ニ加ハリタル軍人側ト黨部トノ關係アリ或ハ一層甚タシキヤト思ハル我方ハ貿易關係ニ於テ又支那沿岸内水ノ航行關係等ニ於テ常ニ事件ヲ生シ支那側ノ無責任ナル煽動者ニ乘セラルノ機會ヲ作り易キ次第ニ特ニ今度ハ奉天派ト中央政府トノ新ナル關係上ヨリ滿洲ニ於ケル幾多日支間ノ輒轢ハ動トモスレハ宣傳其ノ他ニ依リテ他地方ニ於ケル排日ニ利用セラル虞アリ右ノ如キ形勢ナルニ付此ノ際不測ノ事件發生ノ豫防ニ努ムルコト一層必要ヲ感ス御如才ナキコト乍ラ特ニ申進ス

哈爾賓ヨリ齊々哈爾、滿洲里ヘ奉天ヨリ哈爾賓、齊々哈爾、滿洲里及間島地方ヲ除ク在滿各公館ヘ間島ヨリ管下分館ヘ濟南ヨリ博山、張店ヘ青島ヨリ坊子ヘ漢口ヨリ長沙、宜昌、沙市、重慶、九江、成都ヘ北平ヨリ赤峰、張家口ヘ夫々轉電アリタシ

768 昭和5年10月29日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

中原大戰後国民党部勢力拡大につき対日ボイ
コットにつながる事件等起こさぬ様注意方必
要について

上海 10月29日後発

本省 10月29日後着

769 昭和5年11月30日 在漢口坂根總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

対日ボイコットを惹起しない様在留邦人の動
静並び報道振りに留意方について

漢口 発
本省 11月30日後着

第五四四號 貴電第一三號ニ關シ

本件外交部要求提起ノ報道流布セラルヤ本官ハ早速サラ
デダニ南北鬭争一段落ヲ告ケ南京政府トシテ國民ノ視聽ヲ
外部ニ轉セシメムカ爲政策的ニ排日排貨ノ運動ヲモ起スニ
アラスヤト憂慮セラレ其ノ徵候既ニ楊子江各地ニ現ハレン
トル今日居留民一同各般ノ問題ニ對シ支那官民ノ神經ヲ
刺戟セサル様特ニ慎重ノ行動ニ出ツヘキ旨適宜訓示シ置キ
タル次第ナルカ當方面在留邦人ハ何レモ數年後若ハ十數年
後ニ於ケル當地租界ノ地位ニ關シ内心種々疑惧ノ念ヲ抱キ
居ルハ事實ナルモ現下ノ情勢ノ下ニ回収問題力急速實現ス
ヘシトハ何人モ殆思及ハサル模様ニテ其ノ結果一般ニ表
面冷靜ノ態度ヲ持シ居リ從テ將來政府ニ於テ何等具體的商

議ニ入りタルコト外部ニ明瞭トナル曉ハ兔モ角今日ノ場合
支那側ノ反感ヲ誘發スル危險多キ居留民大會等ヲ開催シテ
氣勢ヲ揚クルカ如キコトノ不利益ナル事情ハ四三事件以來
度々苦キ試練ヲ經タル當地邦人間ニ相當深ク悟ラレ居レル
モノト認メラル尙電通當地支局長ニ對シテハ此ノ種早マリ
タル報道振りニ關シ本官ヨリ懇々注意シ置ケリ

公使ヨリ上海、福州、廈門、蘇州、杭州へ暗送アリタン
支、北平、南京、奉天、重慶、沙市、天津へ轉電セリ
支那 12月4日後着

770 昭和5年12月(4)日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）
治外法權交渉を日本側は故意に遲延させてい
ると王外交部長非難について

公第一五六號
三日王部長ト會見ノ際王ハ日本トノ間ニハ各種ノ重要案件
アリ就中條約問題特ニ治外法權問題ニ付テハ中國側ヨリハ
提案ヲ爲シ交渉ヲ待チ居ル次第ナルカ爾來長時日ノ間ニ日
本省 12月4日後着

771 昭和5年12月13日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）
領事裁判權撤廢并法年内立案等との齊世英の
内話報告
南京 12月13日後発
本省 12月13日後着

第九一九號

十二日齊世英ノ館員ニ對スル内話中左記御参考迄

(一)領事裁判權撤廢實施辦法ハ年内ニ立案ヲ了スル見込ニテ
既ニ王正廷、王寵惠兩名ヲシテ研究セシメ居リ多分來週
ノ政治會議ニハ提出セラル運トナルヘキ處王正廷並王
寵惠等ノ作ル案ナレハ左シタル期待ヲ掛ケ居ラス
(二)新關稅率ハ何ノ途政治會議ニ回付セラルヘキモノナルカ
未タ提出ナキ點ヨリ見レハ國民政府邊ニテ相當慎重ニ研
究シ居ルモノト認メラル
(三)目下進捗中ナル電信交渉ノ經過ハ既ニ大體政治會議ニ報
告シ來レルカ政治會議ニ於テハ之ヲ不満足トシ居ルノミ
ナラス莊智煥ハ豫々電報局員其ノ他ヨリ攻撃ヲ受ケ居リ
中央ニ於テモ秘密裡ニ調査ヲ進メタル結果外國會社トノ

奉天、北平、漢口へ轉電シ上海へ暗送シ南京ニ轉報セリ
カ貴方ノ申出ハ兎ニ角政府ニ取次キ置キタリト述ヘ置ケリ
ハ更ニ新ナル問題ヲ提出サレタル譯ニテ實ハ當惑シ居レル
シ居ラサルヤノ印象ヲ日本側ニ與ヘ居ル處之等問題ノ解決
前ニ於テ又復漢口租界ノ還附ヲ正式ニ要求セラルカ如キ
ハ行カス相當時日ヲ要スルコトハ諒解セラル處ナルルヘ
シト思フト說明シ置キタルカ王部長ハ日本側力故意ニ遷延
ヲ有セサルコトハ度々説明セル通ニシテ目下政府ニ於テモ
慎重攻究中ノコトナルヘシト思考ス貴方ニ於テ提案セラル
ルコトハ極メテ容易ノコトニテ又其ノ提案モ甚タ簡単ノモ
ノナルカ日本側ニ於テ之ヲ攻究スルニ當リテハ右様簡單ニ
シト思フト説明シ置キタルカ王部長ハ日本側力故意ニ遷延
主義ヲ採リ居ルカ如キ口吻ニテ不平ヲ述ヘ居タリ
本使ハ更ニ日華間ニハ條約問題ノミナラス其ノ他ニモ解決
ヲ要スヘキ重要問題アリ右ニ付テハ貴國側カ充分誠意ヲ示
シ居ラサルヤノ印象ヲ日本側ニ與ヘ居ル處之等問題ノ解決
前ニ於テ又復漢口租界ノ還附ヲ正式ニ要求セラルカ如キ
ハ更ニ新ナル問題ヲ提出サレタル譯ニテ實ハ當惑シ居レル
カ貴方ノ申出ハ兎ニ角政府ニ取次キ置キタリト述ヘ置ケリ

間ニ金錢問題モアル模様ナルニ付其ノ免職ハ勿論或ハ査
辨ニ付セラルルヤモ計ラレス

四政治會議ニ於ケル王正廷反對ノ空氣ハ意外ニ濃厚ニシテ

最近ハ胡漢民ノミナラス大多數ヨリ攘斥セラレ居ル實情

ナリ

(五)新任教育部長高魯ノ起用ハ多分李石曾トノ關係（滯佛中
ノ知合ナリ）ニ依ルモノノ如ク尤モ教育部實際ノ事務ハ

陳布雷（常任次長ニ擬セラレ居レリ）力當ルコトトナル
ヘシ

上海ヨリ代理公使ヘ轉電アリタシ
上海、北平、奉天ヘ轉電セリ

772 昭和5年12月17日 常原外務大臣
汪(采宝)中国公使会談

漢口租界返還問題その他懸案について

幣原大臣汪中國公使會談錄

昭和五年十二月十七日汪中國公使幣原大臣ヲ來訪シ先ツ
最近ノ日本ノ新聞ハ過般蔣介石ト張學良ノ會見ノ結果排

日方針ヲ決定シタリト云フ如キ報道ヲ傳ヘ居ルモ右ハ全

(一)先般支那側カ漢口租界返還ニ付提議ヲナシタルハ御承
ノ通ナルカ右ニ對スル御考ハ如何

(二)兩國領事館増置ノ問題ニ關シテハ鄭州ハ國民政府ニ於テ
異議ナキコト既ニ御承知ノ通ニシテ洮南モ今回蔣張協議
ノ結果異議ナキコトトナレルモ洮南ハ自開商埠地ニシテ
多少ノ準備時日ヲ要スルニ付其ノ點御承知アリ度シ

(三)過般日本ニテ檢舉セラレタル支那共產黨員三十名余ノ運

ト述へ更ニ進ンテ

ハ自分モ夙ニ考慮シ居ル處ナルカ本邦世論ノ一部ニハ自

分等ノ日支親善政策ヲ以テ餘リニ支那ノ主張ニ迎合スル
モノナリト評シ支那ハ我好意ヲ諒トセスシテ却テ之ニ乘
シ高壓的態度ヲ以テ續々我讓步ヲ要請スルモノナルヤノ
印象ヲ與ヘツツアルハ否ムヘカラサル事實ナリ固ヨリ自

分ハ紛々タル世評ニ屈スルコトナク飽ク迄日支國交改善

ノ爲凡ユル努力ヲ吝マサル決心ナルモ支那側ニ於テ自分

等ノ親善政策ニ呼應スルノ實ヲ示ササル限り右政策ノ實

行上ニ至大ノ困難ヲ免レス自分等ハ日本カ支那ノ國民的

希望ヲ受ケ入ルニ有利ナル空氣ヲ我朝野ノ間ニ醸釀セ

ムカ爲微力ヲ傾注シツツアルモノニシテ之レ即チ租界回

收問題ニ付テモ適當ナル解決方法ヲ協定シ得ラルニ至

ルヘキ必要ナル準備的措置ナリト信ス此準備ナクシテ自

分等限り租界回收ノ協定ニ同意スルトモ樞密院乃至一般

世論ノ反對ヲ受ケ協定ノ批准ヲ得ルコト能ハスシテ却テ

日支ノ關係ハ惡化スルコトアルヘシ固ヨリ支那側ニ於テ

モ國內ノ輿論アリ又種々ノ政治機關アリテ外交問題ノ處

理上自分等ト同様ノ困難ヲ感セラルルコトト察スルモ支

那ノ國民的希望ノ實現ヲ期セムカ爲ニハ支那政府當局ニ

件
七 雜
次イテ大臣ヨリ

(二)領事館増置問題ニ關シテハ洮南カ自開商埠地ナリト謂フ
ナラハ鄭州モ自開商埠地ナリ然ルニ鄭州ハ差支ナク洮南
ハ暫時猶豫スヘシト謂フハ解シ難シ

ト述ヘタルヲ以テ大臣ハ之ニ對シ
(一)共產黨員ノ檢舉セラレタル者カ實際上其ノ後如何ナルコ
トニナリ居レルヤノ點ナラハ情報ヲ求メテ轉報スルハ差
支ナカルヘキモ如何ナル理由ニテ審理カ遲レタリヤトカ
速ニ審理アリタシト謂フカ如キハ司法權ノ範圍ニ立入ル
問題ニテ外務省トシテハ右ニ關スル情報ヲ求メテ貴方ニ
通達スルヲ得ス

(二)領事館増置問題ニ關シテハ洮南カ自開商埠地ナリト謂フ
ナラハ鄭州モ自開商埠地ナリ然ルニ鄭州ハ差支ナク洮南
ハ暫時猶豫スヘシト謂フハ解シ難シ

ト述ヘタルニ汪公使ハ實ハ張學良モ一旦奉天ニ歸リ政務委
員會等ノ意見ヲ徵スル必要アルヲ以テ彼是準備ヲ要スル次
第ナルヘシト内話シタルニ依リ果シテ然ラハ大体何日頃ニ
ハ洮南領事館開館ニ差支ナキニ至ル見込ナルヤト問ヒタル
ニ同公使ハ本國政府ニ問合スコトニスヘシト答ヘタリ

件
七 雜
(三)漢口租界問題ニ關シテハ租界カ永久的制度ニ非サルコト
ナリ

於テモ自分等ノ親善政策ニ呼應シ協力シテ自分等力我國論ヲ之ニ導カントスル努力ヲ容易ナラシムルコト肝要ナリト考フ

ト述ヘタルニ汪公使ハ話頭ヲ轉シテ滿洲ニ於ケル鐵道問題ニ及ヒ

日本ノ新聞ニ依レハ支那側ニ於テ滿鐵ヲ包圍シ之ヲ驅逐ストイフカ如キ説ヲナン居レルモ支那側ハ左様ナ計畫ヲ樹ツ

ルモノニ非ス競争線ノ問題ノ如キモ果シテ真ニ競争線ナルヤ否ヤハ土地ノ開發事情ノ推移等ニ依リ變化スルモノニシテ現在競争線ト見ユルモ其ノ實競争線ニ非サルニ至ルコト

モ考ヘラル旁々日本側ニ於テ支那側カ滿鐵ヲ驅逐ストイフ

如キ誤解ヲ抱カレサル様ニ致度シ
ト述ヘタルヲ以テ幣原大臣ヨリ

滿鐵ト東三省ニ於ケル支那側鐵道ノ間ニハ借款切り換ヘ問題其ノ他種々ノ懸案山積セル狀態ニシテ之等ハ早晚調

整ヲ必要トシ居ル處日本側ハ苟モ支那側ニシテ滿鐵ノ死命ヲ制セントスル如キコトヲ企圖スルハ到底容認ノ限りニ在ラサルモ然ラサル限り兩國鐵道ノ共存共榮ヲ圖リ度

キ考ニテ此ノ見地ヨリ滿鐵側ヲシテ其ノ業務ニ關スル事

項トシテ地方的ニ東北當局トノ間ニ諸般ノ懸案ノ調整解決ニ當ラシメタキ考ナルカ右ニハ何等脅迫的意思モナケレハ又何等要求カマシキ一方的提議ヲナス譯ニ非ス全ク共存共榮ノ見地ヨリ實際的ニ諸懸案ノ調整ヲナシタシト述ヘ置キタリ

(昭和五年十二月十八日谷亞細亞局長述)

ト述ヘ置キタリ

イフニ過キサレハ御安心アリタシ

773 昭和5年12月20日 在南京上村領事より 币原外務大臣宛(電報)

治外法權問題その他王外交部長の記者会見談

話について

南京 12月20日後発 本省 12月20日後着

第九三三號

十九日記者團常例會見ニ於ケル王正廷ノ談話要領左ノ通(一)外交部ハ二十二日過去一年間ノ詳細ナル外交經過ヲ發表スル筈

(二)天津ノ白國租界回收ニ付テハ明年一月中批准交換ト同時

ニ接收スル筈

南京 12月22日後発 本省 12月23日前着

第九三八號

往電第九三三號ノ一二關シ

二十二日ノ外交部記念週ニ於テ王正廷ハ過去ニ於ケル外交

經過ヲ總括報告スヘシトテ民國十七年以來ノ關稅問題ヲ始メ租界回收、法權問題、通商條約國際取極、露支問題、領事館設置問題(臺灣ニハ領事館設置準備中ト述ヘ居レリ)

華僑問題ニ關スル現在迄ノ交渉經過ヲ詳細説明セル後結論ニ於テ大要左ノ如ク述ヘタリ

過去一年間ニ於テ蔣總司令ハ内亂ヲ平定シ張副司令亦誠心誠意中央ヲ擁護シ其ノ南下ニ依リテ統一ヲ完成シ遂ニ世界

各國ヲシテ態度ヲ改メシムルニ至リ曩ニ各國公使カ戰勝祝賀ノ爲來京參列セルカ如キハ普通ノ儀禮ニ過キスト雖其ノ間國際親善ヲ意味スルモノアリ而シテ世界ノ全局ヲ見ルニ此ノ一年間ニ大イニ平和的トナリ中國ニ對シテモ何レモ好感ヲ表シタルカ就中英國ハ最多ク好意ヲ表シタリ尙日本

トハ共ニ亞細亞ニ住シ最隣接シ交渉殊ニ頻繁ナルカ近來益々親善ニ赴キ各種懸案ハ齊シク漸次解決ノ見込アリ曾テ中日

件 774 昭和5年12月22日 在南京上村領事より

幣原外務大臣宛(電報)

上海ヨリ公使ヘ轉報アリタシ
上海、北平、奉天、天津ヘ轉電セリ

~~~~~

括報告

七 雜 件

王外交部長の日中關係を中心とする一年の総括報告

交渉停頓シ鮮カラス困難セルハ田中氏力我國民ノ心理及希望ニ對シ充分ナル理解ナク其ノ對華政策力遂ニ常軌ヲ逸シタルニ依ルモノニシテ最不幸トスル處ナリ

濱口内閣成立以來幣原外相ハ毅然トシテ田中内閣當時ノ態度ヲ改善シ中日邦交ニ利スル所實ニ多シ而モ吾人ハ幣原外相力更ニ一步ヲ進メ積極的ニ親善ヲ表示シ以テ我國ノ不平等條約撤廢ノ目的達成ヲ援助センコトヲ希望ス

本部ハ曩ニ首都ニ於ケル各國公使館ノ敷地準備方政府ニ上申シ目下關係方面ト協議中ニ付遠カラス實現スヘシ目下ノヲ執ル要アリ曾テ帝國主義ニ壓迫セラレタル際ハ素ヨリ強硬ニ反抗セルモ今ヤ列強ハ覺醒シ次第ニ我國ノ民意ヲ尊重シ來レルニ付我方トシテモ相互親善ノ態度ニ出テ在留外人ノ生命財產ニ對シテハ勿論保護ノ責任ヲ盡シ國際的儀禮ニ關シテモ細心ナル取扱ヲ爲シ以テ我大國民ノ襟度ヲ示シ世界ノ視聽ヲ轉換セシメサルヘカラス云々

委細郵報  
公使ニ暗送セリ

北平、上海、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電  
上海、北平、奉天へ轉電セリ

776 昭和5年12月(26) 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)  
治外法權問題解決に關し列國協調による対応可能に思われる旨重光代理公使宛發電について

北平 発

本省 12月26日前着

第八三九號

本官發南京宛電報第三五號ノ一(極秘)

重光代理公使へ左ノ通

本官發大臣宛電報第八三四號(治外法權問題)ニ關シ

五國會議ノ空氣ヲ見ルニ關係國ハ今次中國側ノ脅迫的態度ニ痛ク神經ヲ惱マスト同時ニ本件ニ對スル列國協調ノ必要ヲ益々痛感シ居ル模様ニテ右會議ニ本件ニ直接關係ナキ本官ノ臨席ヲ求メ又英國公使ヨリ「ヒュウレット」ヲ通シ貴官ノ御意嚮ヲ伺ハシムル等頻リニ我方ノ態度ヲ氣ニシ居ルハ恐ラク之力爲カト思考スル處若シ今後本件ニ付列國ノ腰弱ク且歩調モ整ハサルニ於テハ結果中國側ノ言フカ儘ニ考

セリ

775 昭和5年12月(25) 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日中間の治外法權交渉進展中と胡世沢談話掲載の新聞報について

南京 発

本省 12月25日後着

第九四一號

廿四日ノ各新聞ハ胡世澤ノ談トシテ大要左ノ如ク報シ居リ  
重光代理公使ハ過般來王部長ト法權問題ヲ始メ各種懸案ニ付談合中ナル力法權問題ニ關シテハ雙方トモ何等書面ヲ提出セルコトナク單ニ口頭ニ依ル意見ノ交換ナル力談合ノ經過ハ相當進展シ又南京漢口及六一事件等ニ關シテモ雙方ノ意見頗ル接近シ居ル模様ニテ要スル(二)中日交渉ハ最近著シク進展シタルヲ以テ兩三年來ノ懸案及法權問題等モ茲二三月間ニ圓滿解決スヘク中日親善モ漸次實現スヘシ云々  
上海ヨリ公使へ轉報アリタシ

ニテ矢面ニ立タサルヘカラサル満洲問題等ニ對スル中國側ノ要求ヲ合理化セシムル上ニ於テ效果アルヤモ計ラレスト思考ス右思附ノ儘御参考迄大臣、上海ニ轉電セリ

777 昭和5年12月28日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

王家楨は蔣・張間排日方針決定との情報が日  
本陸軍より出でていると非難について

第九五二號  
南京 発  
本省 12月28日前着

廿七日本官王家楨ト種々雜談シタルカ其ノ際王ハ日本ノ新聞ハ張副司令ト蔣主席トノ間に排日ニ關スル話合ヲ爲シタルカ如ク傳ヘ居ル處斯ル事實絕對ニ無キノミナラス副司令ヨリモ自分ニ對シ二回迄電報ヲ以テ注意シ來レルニ依リ本件ニ關スル日本新聞記事ハ極メテ念入りニ研究シ右情報ノ主タル出所ハ寧ロ東京ニアルコトヲ確メタリ然ルニ或ル日

本人ハ自分ニ對シ右情報力參謀本部方面ヨリ出テタルモノナリト内話セルカ義ニ張作霖爆死事件ノ前ニモスル風説流布セラレタルコトアリタル爲奉天側ニテハ今回モスル謠言流布ノ裏ニハ何等魂膽アルニ非スヤトノ杞憂ヲ抱ク向モアル位ナリトテ暗ニ陸軍側ニテ何等策動ヲ爲シ居ルカ如キ口吻ヲ洩シタルニ付右ニ對シテハ本官ハ強ク之ヲ否定シ無責任ナル日本人ノ言ニ惑ハサルルカ如キコト無キ様充分説示セリ

其ノ結果王ハ實ハ自分モ日本現内閣ノ對華政策ハ充分好ク諒解シ居リ南京側ノ對日空氣モ頗ル良好ナル處前記副司令ヨリ電報ノ次第モアリ此ノ際前記ノ如キ謠言ハ之ヲ打消シ置ク必要アリト考ヘ特ニ王部長ノ記念週演説中ニ一言對日好感ノ趣旨ヲ挿入スル様取計ヒ置キタル次第ナリト釋明シ居タルカ右會談ニ依リ奉天側ニテハ今次ノ新聞記事ニ付テスラ極度ニ神經ヲ尖ラシ居ルコトヲ觀取セラレタリ

公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ

支、北平、奉天へ轉電セリ

## 2 領事裁判権管轄問題

（上海臨時法院問題を含む）

778 昭和5年1月(2)日 在中国堀内臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

上海臨時法院問題に関する列国交渉委員協議  
結果我が方へ隨時内報方にについて

北平 発  
本省 1月2日後着

側交渉委員間ノ内協議ニハ日本領事等モ參加ヲ希望スル旨ヲ述ヘタル處各公使共主義上ハ異存無キモ南京ニテハ支那側ノ注意ヲ惹キ其ノ反対ヲ招ク虞アルニ付寧ロ特定ノ委員ヨリ隨時詳細日本側ヘ内報セシムルコト然ルヘントノ意見ニテ結局英國公使ヨリ「ヒュウレット」ヘ其ノ旨訓令スルコトナレリ（右ハ一日朝既ニ英國公使ヨリ電訓セル旨通知アリタリ）

上海、南京、奉天へ轉電セリ

779 昭和5年1月(3)日 在中国堀内臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

英中間での治外法権問題交渉開始に際し英國側  
意向に関するランブソン英國公使との会談報告

北平 発  
本省 1月3日前着

第一號  
(一)先ツ南京發閣下宛電報第一三〇六號ノ交渉委員請訓ニ付  
付協議セリ

佛國公使ヨリ逐條審議ヲ提議シ各項目ニ付意見ノ交換ヲ  
爲シタルカ右結果ニ基キ専門委員ニ於テ同訓案ヲ起草シ  
一日夕更ニ會合審議ノ上直ニ發電案ニ付打合タリ

(二)次テ本官ヨリ日本ノ共同交渉參加方ニ關スル交渉ノ經緯  
ヲ説明シタル後貴電第三六五號ノ御趣旨ニ基キ今後我方  
ヨリ必要ニ應シ意見ヲ申出ツル場合モアルヘキニ付外國

第七號（極秘）  
客年往電第一三七二號ノ(二)ニ關シ

英國公使ハ治外法権問題ニ關シ王正廷ト交渉ヲ開始スル爲  
「タイチマン」「ベネット」兩書記官ヲ帶同シ二日當地發